



みなみみのわ

議会だより

No. 151
2025.11.1
発行



2025-26シーズン がんばれ!! VC^{NAGANO}TRIDENTS



一般質問動画 配信中

QRコードから各議員の一般質問動画が
観られます。

インターネット村ホームページ→村議会→
本会議録画中継→定例会



村民の声を聴く会	P2~3
9月定例会・臨時会	P4
決算特別委員会	P5~6
お知らせ	P7
一般質問	P8~15
議会活動(視察・懇談会など)	P16~17
キラキラ村の仲間たち(VC長野トライデンツ)	P18~19
モニターの声	P20

村内12地区で「村民の声を

聴く会」を開催しました

令和7年度「村民の声を聴く会」は、5月から8月にかけて全12区を回りました。会場の手配などご協力いただきました地区のみなさまに感謝申し上げます。ご参加いただいた79名のみなさまからは120件にのぼる多数のご意見をいただきました。

中込区 (令和7年5月14日)



大芝区 (令和7年5月18日)



北殿区 (令和7年5月24日)



久保区 (令和7年6月21日)



南殿区 (令和7年6月21日)



神子柴区 (令和7年6月28日)



塩ノ井区 (令和7年7月6日)



田畑区 (令和7年7月8日)



大泉区 (令和7年7月23日)



北原区 (令和7年8月3日)



南原区 (令和7年8月5日)



沢尻区 (令和7年8月9日)



参加者アンケートに寄せられたご意見

- 区の役員として参加しました。あまり考えたことのない意見を聞いたり、何が問題か考えさせられました。
- できれば村民センターに戻して開催しても良いと思う。もっと広報に力を入れてほしい。
- 今回は特に多くの意見が出て良かった。 ● 良い企画で継続してほしい。

村へ要望書提出

出された意見の中から村への要望をまとめ、10月9日に「村民の声をもとした要望書」を提出しました。



令和7年10月9日

南箕輪村長 藤城 栄文 様
南箕輪村教育長 尾形 浩 様

南箕輪村議会議長 笹沼 美保

村民の声をもとした要望書

南箕輪村議会は今年度も村内12地区に出向き「村民の声を聴く会」を開催しました。それぞれの地区で出された意見をまとめ、今後の村政運営に役立て、村民の利益に資するため、ここに要望いたします。

記

1. 冬季のみスクールバスが運行されている地区でも、夏の猛暑を考慮して夏季の運行を検討されたい。また、中学生の自転車通学もあわせて検討されたい。
2. 「持続可能な自治体検討会」において行政協力業務が削減され、一方で補助金が大幅に削減された。地域コミュニティの維持・発展のため、区への助成金増額を検討されたい。また、行政協力業務削減の効果についても検証されたい。
3. 地区計画の要望件数に制限があるため、多くの計画が先送りとなっている。地区の課題を解決するため、地区計画の予算の増額を検討されたい。
4. 活動が活発化している地区社協の現状に見合うよう、活動内容に応じた助成金の引き上げを検討されたい。
5. 児童・生徒の通学路として利用されている村道4号線および6号線の歩道未整備区間の早急な歩道整備を検討されたい。
6. 金属収集・リサイクル処理業者の騒音により、日常生活に支障をきたしている地域もある。住民の生活環境を守るため、村独自の規制を設けることを検討されたい。

参加していただいたみなさま、
ありがとうございました。
いただいたご意見は、今後の
議会活動に生かしてまいります。

ありがとうございました



村民の福祉向上を望み決算認定

9月1日から22日までの日程で開かれた9月定例会では、13議案すべて原案のとおり可決、認定、同意しました。また、9月30日の清水閣成教育長退任に伴う、尾形浩氏の任命に同意し、10月1日より新たに教育長に就任しました。

	件名(議案名はわかりやすく簡略表記しています)	賛成	反対	議決結果
条例	地方公務員の育児休業等に関する法律の一部を改正する法律の施行等に伴う関係条例の整備に関する条例 ▶地方公務員の育児休業に関する条例の改正	8	0	可決
令和6年度決算	一般会計歳入歳出決算の認定	8	0	認定
	介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定	8	0	認定
	国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定	8	0	認定
	後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定	8	0	認定
	水道事業会計決算の認定	8	0	認定
	下水道事業会計決算の認定	8	0	認定
令和7年度補正予算	一般会計補正予算(第5号)	8	0	可決
	介護保険事業特別会計補正予算(第2号)	8	0	可決
	国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)	8	0	可決
	後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	8	0	可決
その他	南箕輪村教育長の任命について ▶清水閣成教育長の任期満了に伴う退任、尾形浩氏の新任	8	0	同意
	教育委員会委員の任命について ▶田中博美氏の再任	8	0	同意

注) 9月定例会は1名欠席で全会一致は8名。

令和7年第4回臨時会(8月7日)

	件名(議案名はわかりやすく簡略表記しています)	賛成	反対	議決結果
	一般会計補正予算(第4号) ▶大芝の湯源泉送水ポンプ取替工事など	8	0	可決
	財産の取得について(消防団多目的車両3台) ▶晴海産業株式会社 36,323,100円	8	0	可決
	財産の取得について(防災用コンテナ型トイレ式) ▶エムエステック株式会社 29,975,000円	8	0	可決

注) 第4回臨時会は1名欠席で全会一致は8名。

令和7年第5回臨時会(10月9日)

	件名(議案名はわかりやすく簡略表記しています)	賛成	反対	議決結果
	南箕輪村特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例等の一部を改正する条例 ▶人事院勧告に伴う一般職員の寒冷手当廃止	8	0	可決
	一般会計補正予算(第6号)	8	0	可決
	財産の取得について(村公用バスをリース契約から購入へ変更) ▶八十二オートリース株式会社 9,923,770円	8	0	可決

注) 第5回臨時会は1名欠席で全会一致は8名。

第4回臨時会 財産取得内容

消防団多目的車両3台
(配備先: 田畑、神子柴、沢尻)
約3,632万円



既に配備されている多目的車両の参考写真

大芝公園防災用コンテナ型トイレ
約2,997万円



職員視察時の参考写真

決算審査中の議員から村への質問を紹介

質疑 区への行政委託費が減少した理由は?

答弁 村報配布やゴミの立ち合いをシルバー人材センターに委託、すこやか係を廃止したため、区への委託費が全体で327万円の減額になった。

質疑 LINEによる通報件数は?

答弁 道路や不法投棄の通報メニューがあり、道路に関する通報が52件寄せられている。

質疑 区対抗イベントが無くなり、「まっくんスポーツフェス」に変わった理由は?

答弁 区対抗イベントは役員が人集めに苦労しているとの声を受けて「まっくんスポーツフェス」に変更した。誰もが楽しめるスポーツを企画し、地域コミュニティを維持する新たな取り組みを検討したい。

質疑 水道の有収率アップのために漏水調査はしているか?

答弁 漏水は定期的な調査はしていないが、漏水は問題であり調査することを広域含めて今後検討したい。



決算特別委員会の様子

議会からの要望

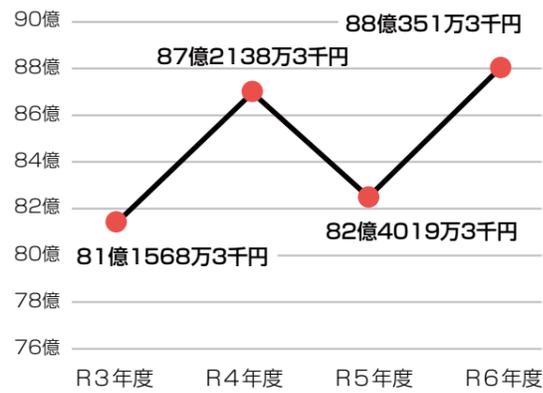
ふるさと納税や国からの補助を見込むことが難しくなる中、新たに自主財源を創出するなど、健全な財政維持に努め、村民の福祉向上のための事業を重点に据えた村政運営を望む。



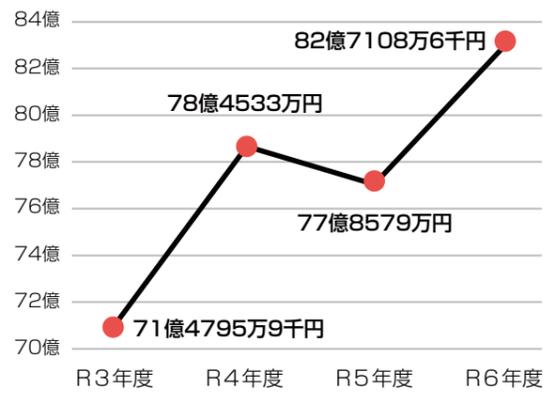
定例会最終日の動画をこちらからご覧いただけます

近年の村の決算状況

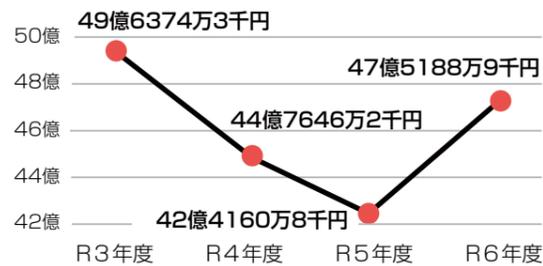
歳入の推移



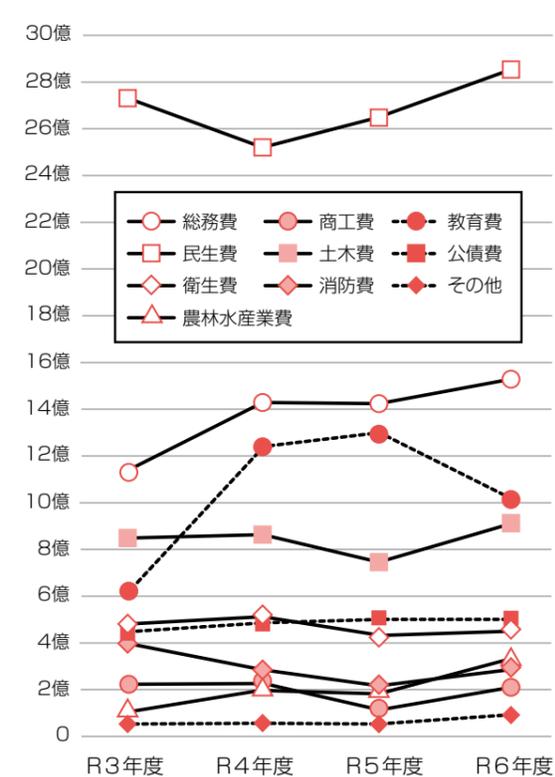
歳出の推移



依存財源の推移 ※1



目的別歳出の推移 ※3



自主財源の推移 ※2



- ※1 依存財源 国や県などから交付されることで得られる収入源です。国の政策や財政状況に左右されるため、自律的な財政運営を妨げる要因にもなり得ます。
- ※2 自主財源 自らの意思で徴収や用途を決定できる収入源です。地方税や各種手数料などが含まれます。自主財源が多いほど独立性が高いと言えます。
- ※3 目的別歳出 どのような目的に資金を使っているかを示す分類方法です。その年の歳出がどのような行政サービスに使われたかを、把握するために用いられます。

南箕輪村議会へ行ってみよう！

「議会ってどんなことをしているの?」「傍聴って難しそう…」
 そんなイメージを持っている方も、ぜひ一度、南箕輪村議会を見に来てみませんか?
 南箕輪村の議会は、役場3階の議場で開かれています。
 村の未来や日々の暮らしに関わる大切な話し合いが、ここで行われています。

議場の場所

- 南箕輪村役場3階。
- 役場正面入口から入り、エレベーターをご利用いただけます。
- 車いすの方も安心してお越しいただけます。



傍聴席入口

議会の傍聴について

- どなたでも傍聴できます。
(当日、氏名と住所を記入)
- 議会中は静かに傍聴してください。



次回の議会日程

次回の議会は12月1日から開催予定です。
 ※決定日時はホームページをご確認ください。



傍聴席

- お問い合わせ先 議会事務局 (☎72-2361)まで

10月14日 中学生議会2025！開催しました



南箕輪村の中学3年生たちが、議会ってどんなところかを事前に学びながら、議場で自分たちの意見を発表する「中学生議会2025！」を開催しました！

中学生議会2025！のようすは次回の議会だより152号に掲載しますので、お楽しみに!!



問 地域農業の将来計画は

答 合意形成を高めていく(村長)

原 源 次

問 農家基本台帳で土地の意向調査があるが、調査結果から村内農家の実態、傾向はどうか。

農業委員会 調査対象農地は10,300筆で、『売りたい』が815筆(7.9%)、『貸したい』が247筆(2.4%)であった。小規模生産者がリタイア、農地処分等を検討している。農地の最適化を推進し、地域計画と関連付けて、地元の中心的担い手に農地集積、新規就農者の積極的受け入れ等、村の農業の振興に努める。

問 担い手・後継者不足と言われているが、村として今後取り組む方法はあるか。

村長 農地の維持管理が難しいなどの相談が増加傾向にある。一方で新規就農希望の相談が増えており、認定新規就農者がR 5年～7年に7夫婦、単身1人あり、着実に芽が育ちつつある。村独自の補助制度はないが、今後検討する。農業委員会と連携した個別相談の実施、JAインターン研修など各種支援制度の案内を今後も行う。また新規就農カードを作成し、情報共有の円滑化を図り、希望に沿った就農につながるよう体制を整える。関係機関と緊密に連携し、相談から就農、定着までの支援に努める。

問 各地区で10年後の地域農業の在り方等の話し合いがあったが、その内容と結果は。

村長 各地区、役場で計228名出席。地域農業における問題点や課題、課題解消のためのアイデアを、地域主体で話し合い反映するために行った。高齢化、人手不足、草刈り等維持管理の負担、所得の伸び悩みが課題として上がった。解決に向けた方策は、省力化による機械導入、村による農業機械貸し出し制度の検討、スマート農業の導入等が示された。関係機関と協議し、実行可能なものから進めていきたい。引き続き地域計画を進め、地区毎の耕作者の見え

る化、作業受委託等十年後の農地をどう守り、誰が担うか、合意形成の気運を高めていく。

問 農業労働省力化のため、圃(ほ)場の集約・機械化が叫ばれているが初期費用が大きな負担。補助事業導入など有利な方法は。

村長 個人に対する村独自の補助制度はない。農地中間管理事業を活用した場合、要件を満たせば圃場整備補助を受けられる。地域の合意形成を大切にしつつ、農地中間管理事業の活用も視野に取り組みを後押ししたい。村ではR7年度より農業機械等導入補助金を創設した。認定農業者を対象に、15万円以上の導入経費に対し3割、上限30万円補助する。

問 農事組合法人『まっくんファーム』の持続可能な支援方法は。

村長 地域農業の受け皿として、年々役割は大きくなっている。村からは運営費、機械購入費に対する補助を行っており、今後は人的支援など、実効性のある支援に取り組んでいく。

問 小学校で稲作栽培体験学習を行っていたがなくなってしまった理由と今後は。

教育長 学校では主体的継続的な学習に取り組んでいるが、稲作は日常的な作業や管理があり難しい。各学級での探求の時間を大事にしている状況で、今後は教科横断的な学びとなる活動にどう位置付くかが課題。



「まっくんファーム」による稲刈り



問 学校体育館に空調設備を

答 他の事例を参考に導入方法を検討したい(教育次長)

百 瀬 輝 和

問 小中学校の体育館に空調設備の導入を。子どもたちの学習、生活の場であると共に、災害時には避難所として活用される体育館の機能強化のため進めていく必要があると思うが。

教育次長 夏場は室内が大変暑い状態であり児童生徒の体調管理に配慮した、環境づくりが大切であると考えている。近年の猛暑への対応には苦慮している。授業やクラブ活動に使用するほか、わくわくクラブの登録団体が利用する。また災害発生時には避難所として利用される施設であるため、空調設備の導入は前々から検討をしていた。しかし、他の優先順位の高い改修工事を行っている状況である。空調設備導入にはさまざまな課題もあり他の自治体の設置事例も参考にして検討を行っていききたい。

問 児童生徒に対する性暴力等防止等の取り組みで、教師の服務規律の確保は。

教育長 県教委や郡校長会、村教委の指示に基づき各学校では職員会議や職員連絡会で一人ひとりの職員に周知徹底を図っている。3校共通で4月当初職員会議で服務規律の確認を行っている。県教委から出されている性暴力防止チェックシートに記入して防止の徹底に努めており、中学校では非行為防止委員会が日常的に活動して防止に努めている。

問 子どもたちの安全を守る取り組みで、スクールガードやスクールガードリーダーの現状と今後の取り組みは。

教育長 長野県では警察スクールサポーターとして運用要項を制定し、学校との連携を強化して少年の非行防止、安全対策の推進に活動している。学校からの申請で南部小では、1、2年生の防犯教室をプロの目線から指導を受けた。また、6年生はネットモラルの話を聞いて

いる。職員の不審者対応訓練でも助言をもらっている。時々、登下校時に巡回している。危険箇所点検は通学路交通安全推進協議会が関係者と現地確認して対策を協議して安全対策を実施している。登下校の安心安全はボランティアの協力で確保している。

問 SPS(セーフティプロモーションスクール)の認証に向けて進めては。

教育長 SPSの認証は、学校の安全性向上に貢献する制度である。認証を受けることは推奨されており、学校の安全レベルを高める有効な手段であると思う。しかし、認証を受けるためには、学校全体の体制強化と計画立案、実施報告を行っていく必要がある。各学校の状況、関係機関、地域の状況を考慮して子どもたちが安心して学校生活を送れるように、教職員、地域住民の協力のもと、今後慎重に検討すべきであると考えている。

問 国の支援制度「劇場、音楽堂等における子ども舞台芸術鑑賞体験支援事業」「文化芸術親子教室事業」「学校における文化芸術鑑賞体験推進事業」の周知と活用を進めては。

教育長 学校には紹介していく。文化・芸術親子教室では、村にも大事な無形文化財があるので、社会教育係と相談したい。



見守りボランティア



問 線状降水帯による水害への対策は

答 ハード整備だけでなくソフト対策も強化(村長)

山崎 文直

問 7月の豪雨により河岸段丘付近で災害が発生した。住宅地域内の水路が狭いことも原因だが、水路整備の計画は。

村長 豪雨により村内各所の河川・水路で越水、のり面の崩落、床上・床下浸水などの被害が発生した。要因は降雨量が水路の排水能力を上回っており、加えて西天竜幹線水路の水量調整が遅れたことで被害が広がった。



段丘上で起きた土砂崩れの現場

水路は複数の機関で管理しており道路側溝や生活排水系の多くは村が管理している。二級河川は県が管理、農業水路はそれぞれの土地改良区などで管理している。村が管理している水路整備は、堆積土砂、障害物の除去、放流部の目詰まり解消、小規模な破損箇所から修繕。村が管理していない水路については、越水が起こる箇所は県などへ要望を上げていく。住民の安全を最優先に県・土地改良区・地元水利組合と緊密に連携して、緊急対応・恒常的な維持管理改修を両輪として進める。

問 今後線状降水帯により被害の恐れがある場所への対策は。

村長 線状降水帯による災害が全国で相次いでいる。ハード整備だけでは被害が防げないた

め、個別避難計画や災害時の確実な情報提供などのソフト対策も同時に強化、防災人材を育成していく。本村の地域特性として天竜川流域や大泉川や大清水川の下流合流域では、短時間で水位が急上昇しやすく、防災マップが示す通り危険度が高い区域になっている。この区域は防災無線などの情報伝達方法を整え、平時からの避難訓練などを実施していく。自然災害の激甚化は今後も進む。これに対応した新たな水害対策の構築が急務となっている。国は集水域から市街地までの流域治水を一体化して進めている。村としては堆積土砂の除去などを進めるとともに、営農との両立を図りつつ農地溜池処理を地権者合意の下で進めなければならない。気温の上昇に伴い、2度気温が上がると降雨は概ね1.1倍、流量は約1.2倍になる試算がある。気温プラス2度を前提にした水位計画を見直しが必要。国においても天竜川水系では将来整備計画があり、村としても公共施設改修計画に反映していく。国土強靱化基本計画がR7年6月に閣議決定された。予算が配分されるよう関係機関に要請していく。デジタル技術を活用した観測体制も必要な範囲で監視できる整備を進める。自助・共助の体制や北部消防とも連携した水難訓練も重要である。

問 地域防災計画に水害対策の新しい考えを取り入れては。

村長 今年度、計画に水路法に基づく水防計画を新たに位置づけた。村単独では対応が難しい面があるため、県の地域防災計画や水防計画に沿った形で進めたい。



問 戦後80年平和の取り組みを次世代に

答 今後も平和に関する取り組みを継続する(村長)

三澤 澄子

問 戦後80年、アジア太平洋地域では2千万人以上の命が奪われ、国内でも地上戦、原爆投下など多くの被害や苦しみがもたらされた。歴史を受け止め、二度と戦争することのない社会を未来に継承していくことが今を生きる私たちに求められる。

村は昭和59年12月14日に非核平和自治体宣言を決議し、平和への取り組みをしてきた。

村長 唯一の被爆国であり、平和憲法から非核平和都市宣言をし、標柱、懸垂幕を掲示してきた。平和首長会議に参加、満蒙開拓平和記念館のパートナー、原爆写真展など取り組む。今後も平和に関する取り組みを地方自治体として継続し取り組む。

問 自衛隊への個人情報提供は憲法13条と個人情報保護法69条で対応しているか。第40回大芝高原まつりで自衛隊展示を要請した件について村長の見解は。

村長 自衛隊名簿提供については、今後も閲覧による対応をする。まつりの運営は実行委員会の中で協議することであり、村が意思決定をしないので答弁はできない。

問 満蒙開拓平和記念館に「前時不忘、後事之師」の故事がある。過去を忘れず未来の教訓とする。今の時代であるから学ぶことが重要。村の小学生が1回は記念館を訪れる予算付けを。合わせて駒ヶ根市登戸研究所平和資料館や

満蒙開拓青少年義勇軍の学びも公民館講座などで深めては。

教育長 自治体パートナー制度で学ぶ人もいる。子どもは社会科や総合学習などそれぞれの段階で学びに取り込む。記念館へ行く学級、学年があればスクールバス使用など支援していきたい。

安心して通える保育園に

問 村保育園は、たけのこ園と5保育園の公立のみで保育してきた。現在の定数、職員、施設整備の状況と課題は。

村長 9月時点では各園定数を下回っており、待機児童もない。会計年度任用職員の報酬改定で一定の効果はあったが、さらに確保する必要がある。夏休みに高校生アルバイト20名を受け入れ裾野を広げる取り組みをした。施設整備は修繕改修を行っている。「だれでも通園制度」は検討を進めているが、一時保育と重なる部分が多い。安心安全の確保と質の維持を最優先に必要なサービスが行き届くよう努める。

豪雨災害に対する対策について

問 7月1日線状降水帯の被害は想定できたか。黒川沿いの村道1040号線は路肩が弱く災害の危険があり、対応が必要では。

村長 今回のように50mm/時間以上の雨が短期に集中するケースはハザードマップの前提とは異なり、予測することは難しい。1040号線は短時間の集中豪雨で黒川への流入が一気に増え、下流の樹木の繁茂が流れを阻害した。JRの敷地にかかる樹木の伐採、枝下ろしを進める。路肩を再点検し、危険が認められる箇所があれば、応急措置後、本復旧を行う。



問 森林環境譲与税を活用した学習机天板取り替え事業は

答 南部小はアカマツ材で300枚作成する(教育長)

唐澤由江

問 学習机天板取り替え事業は。

教育長 R5年度から南中は700枚製作。R7年度は南部小(開校30周年記念)で取り替える。南箕輪小はR8年度以降に実施予定。

問 子どもたちの反応は。

教育長 「温かみがある」「大切に使うようになった」「教室が明るくなった」など高評価を得た。天板交換を通じて村木への理解や環境教育、職業観醸成につながった。

高齢者の介護認定状況について

問 健康長寿な村民が増えることが大切。介護認定の状況は。

村長 R6年度末の65歳以上第1号被保険者数は3,824人のうち、要介護・要支援認定者数は530人、認定率13.9%。未認定者は3,294人(86.1%)で、県平均82.6%を上回る。65~74歳では1,815人中認定者43人、未認定1,772人(97.6%)と認定率が低い。介護予防日常生活支援総合事業など、活動的高齢者を増やす支援をしていく。

問 村の認知症者数は。

村長 R5年度の介護認定者569人中163人(28.7%)が認知症。認知症が第1位で約3割を占める。国の基本計画では認知症やMCI(軽度認知障害)は3.6人に1人(27.8%)と試算。サポーター養成講座で啓発していく。

問 認知症リスク要因は。

村長 WHOが示す14の修正可能リスク因子として、教育、難聴、高血圧、肥満、喫煙、身体不活動などがある。補聴器購入助成事業の周知で難聴対策の重要性を説明。介護予防教室で栄養指導や運動、フレイル予防を実施。社会的孤立防止に向け、地域活動支援やケース対応で

社会参加を促進することでリスク軽減を図る。

全国学力状況調査の結果と今後の指導計画について

問 小6・中3の国語、理科、算数・数学の国の動向と村との比較は。

教育長 小6国語は全国平均を若干下回り、算数・理科は上回る傾向。中3は国語・理科が上回る一方、記述式問題(思考・判断・表現)正答率に課題があり、時間をかけた演習が必要だ。今後の指導計画は、問題を解く体験を拡充し苦手分野への授業充実を図る。

問 近年の酷暑による熱中症への対策として「冷水器」を利用しては。

村長 以前、役場や大芝高原などで設置していたが課題があった。小中学校へ水筒専用冷水器を導入し、部活動等での水分不足を補う案を教育委員会で検討している。

問 建設してから時間が経過し、さびが目立つ大泉地下歩道。塗装の塗り替え、蛍光管をLEDにしては。

村長 管理は長野県で、村から修繕要望を提出するため現地調査をして早期施工を要請した。大泉区管理の照明については区と協議し、蛍光管からLEDへの更新検討を進めていく。



さび付いた大泉の地下歩道



問 「みんなの森」側にある駐車場を拡張する考えは

答 樹木を伐採してまで拡張はしない(村長)

西森一博

問 「みんなの森」側の駐車場が少ないが、駐車場を拡張する考えはあるのか。

村長 R5年度の村民アンケートでも、みんなの森側に駐車場を増やしてほしいとの意見があった。みんなの森は保安林に指定されており、新たに駐車場を造成することは厳しく、既存の駐車場を拡張するには、樹木の伐採を伴うため拡張しないと。利用実態を把握して満車時の迂回や誘導表示設置について検討したい。

問 バイク利用者が増えてきているが、バイク用駐車スペースを設置する考えは。

村長 道の駅である大芝高原では、バイクの来訪者が増加傾向にある。ステキランチがSNSで取り上げられたことで話題となり、ステキハウス周辺はバイクの駐車場が不足している。混雑や転倒からの安全を確保するため、バイク利用を分かりやすく示す案内や誘導表示の設置を進めていく必要がある。

生活道路の法定速度引き下げについて

問 道路交通法が改正して令和8年9月から標識の無い生活道路の法定速度が30km/hとなる。村内で交通量が多く、標識の無い生活道路の実態を把握しているのか。

村長 中央線や中央帯がなく、幅員が5.5メートル未満の狭い道路が目安とされている。車道幅員5.5m未満の村道は全体の87.7%。また、標識が無く中央線がある道路は引き続き60 km/h のままで、ゾーン30プラスについても、引き続き30 km/hの制限が維持される。

問 住民へ理解が重要だが周知方法は。

村長 地域への浸透には自治会、警察、村交通安全協会と連携し、制度の意義や目的など、周知啓発に取り組みたい。

民生児童委員のなり手不足について

問 なり手不足の原因とその課題は。

村長 民生児童委員は住民の立場から地域と行政をつなぐ役割を担っている。仕事や育児が一段落した人が多かったが、定年延長などで委員を担える年代が上昇している。区の加入者減少と地域住民同士の結びつきが薄れたことで、候補者数が少なくなった。任期が3年と長期間であり、職務内容も大変で無報酬であることから、避けられる傾向にあると考えられる。



地域で相談に応じる民生児童委員

問 村として支援や負担軽減を行っているのか。また各地区の定数見直しの考えは。

村長 民生委員は基本無報酬だが、県から活動費として年60,200円、村から福祉事務調査委員として年124,800円を支給している。活動も心理的負担が生じないように、家庭の内情に深く踏み込むのではなく、気になる点があれば福祉課につなぐことにしている。定数は改選時に人口動態や地域ニーズを踏まえ検討したい。

問 村としても積極的に候補者の掘り起こしをする必要があるのでは。

村長 村でも候補者の掘り起こしを支援する必要がある。候補者の選定期間や民生委員活動の周知と広報の改善。各区の自主性を尊重しつつ選定時には村役場職員が同行して説明するなど、必要な取り組みを行いたい。



問 ふるさと納税返礼品問題の再発防止策は

答 地場産品基準の確認を徹底する(村長)

都志今朝一

問 村ふるさと納税返礼品の一部で、総務省登録内容と異なる事案が発生した。再発防止策は。

村長 村と返礼品提供事業者の間で返礼品に関する協定を早急に締結し、チェック体制の充実や調査のできる体制を整える。

問 企業版ふるさと納税の現状と今後の課題は。

村長 企業版ふるさと納税の実績は、5年間で1,070万円となっている。地域創生事業や「まち・ひと・しごと創生基金」などに活用。制度延長を活かし対象事業を拡大する。

村の防災対策について

問 防災研修センター(森の学び舎)に非常用発電設備の設置が必要では。

村長 常設型非常用発電機、太陽光発電設備、定置型蓄電池の導入を検討。定期的な負荷試験、運用訓練の実施を軸に、費用対効果や調達保守体制を総合的に精査する。

問 村内急傾斜地の安全対策は。

村長 7月1日の豪雨被害は、想定外の大雨による水路の容量を超えた越水が主因。急傾斜地は改めて現地調査を行い、危険箇所には雨水が流水しないよう排水対策などを検討していく。

問 村の指定避難所は避難所基準を満たしているか。

村長 避難所専有スペースは基準を満たしている。トイレは災害初動段階の指標を満たしていない。交付金を活用し、指定避難所54か所に各1基、計54基の災害用トイレをR7年度中に配備する。

大芝高原整備計画について

問 かつてマウンテンバイクコースに使用していた場所を、熊対策で整備する計画はあるか。

村長 当該区域は計画の範囲では整備を行わないゾーンだが、林縁部の下草などを刈り払いし、見通しの確保などの整備が熊対策では有効。目撃情報が毎年続くようであれば、整備の判断が求められる状況。

問 水の広場にある池はヘドロなどが溜まり水遊びができない。改修計画が必要では。

村長 水遊び可能な場にするには、良好な水質を安定的に確保できるかが課題。大芝湖構造改修も視野に、効果的な水質改善策の検討が必要。

平和学習について

問 今年行われた広島平和学習について、学習の成果と反省点は。

教育長 事前学習を2回行い、学びを深める準備をした。現地では資料館見学、平和記念式典参加を通して被爆地の歴史と平和への想いを体感できた。成果として、いじめ対応や戦争教材学習など、日常の行動変容につながる気づきが得られた。



広島の世界遺産(原爆ドーム)



問 都市計画マスタープランの検証状況は

答 現状把握と課題を抽出し、次に反映していく(村長)

太田篤己

問 現在策定中の都市計画マスタープラン(以後、マスタープランという)については、素々案が公表され、内容の審議を都市計画審議会に諮問しているが、このマスタープランは20年後の村のあるべき姿とその実現のための大変重要なものである。次期マスタープランに生かされるべき現マスタープランの検証状況は。

村長 定量的な到達状況としては、R7年度の将来人口14,800人に対し、実績は約16,000人と上回っている。また、都市計画道路の整備率は、H19年マスタープラン策定時の12%から26%へ向上している。検証を進めるにあたり現状把握と課題の抽出を行っており、この結果を踏まえ、次の四つの目標に反映していきたい。

- ①伊那谷の自然環境と共生するむらづくり
- ②快適に暮らせるコンパクトなむらづくり
- ③災害に強い安全・安心なむらづくり
- ④産業・観光を支える活力あるむらづくり

問 新マスタープランにおいて、村は独自に「緑住共生ゾーン」を設定し無秩序な市街地拡大を抑制するとしているが、なぜ新しい分類のゾーンを設定したのか。その経緯と、このゾーンの将来像をどのように想定しているか。

村長 「緑住共生ゾーン」は、住宅・商業業務・工業ゾーンと農業ゾーンの間に位置する新たなゾーンとして設定するものである。その経緯は、前回計画で農業ゾーンとしていた県道吹上北殿線沿いや南部小周辺に住宅地の形成が進んでいる。こうした区域について周辺の営農環境との調和を図りながら、良好な住環境の維持形成を進めるために新設するもので、新規就農者や移住者の受け皿としての機能が期待される。一方で、農業ゾーンの保全を最優先に、既存の下水道が整備されている区域に対象エリアを限

定するなど、必要最小限で進めていきたい。

問 長野県は、現在の都市計画区域が、実態の県民生活・行動圏域からすると狭域であることや、持続的発展をするためには都市と農村が共生しあうことが必要であると、上伊那圏域における「都市計画区域マスタープラン」をR5年に変更している。これとの整合性はどう盛り込まれるか。

村長 本村のマスタープランとの整合性については、先の四つの目標を掲げ圏域計画の方向性と一致させつつ、村の実情に即して具体化を進めている。①拠点としては、圏域構造の骨格となる拠点とされている北殿駅、村役場に加え、村の計画では大芝高原など独自の拠点を加えている。②交通の軸については、広域交流軸としての中央自動車道、国道153号等が定められているが、村ではそのほかに村内の県道や村道を重ね合わせてネットワークを構成するよう補完している。③土地利用構成については、住宅地と農用地、森林地域の基本区分が定められているが、それを踏まえ村独自の緑住共生ゾーンを設定し、計画的な土地利用誘導に資する設計としている。



検討中の将来都市構造図(見直し案)

総務経済常任委員会

バイオマスボイラーの視察

7/28・29

大芝の湯に導入予定のバイオマスボイラーについて学ぶため、先進地の長野市保科温泉と群馬県たんげ温泉の取り組みを視察した。長野市ではバイオマス産業都市構想をR3年6月策定、R4年2月認定を受け取り組んでいる。保科温泉はH24年3月に木質ペレットボイラーを導入して現在に至っているが、トラブル等の対応で重油ボイラーと併用している。温室効果ガス削減等メリットはあるが、点検作業の増加、負荷変動の対応で重油ボイラー併用が必要であることと、スペースが広く取られるデメリットもあるため、市の施設での導入は進んでいないようだ。群馬県たんげ温泉では、(株)WBエナジーの支援を受けてバイオマスボイラーをH29年2月に2台(1台は故障時対応のため)導入し、6か所ある温泉すべてをまかなっていた。2台導入は故障対応のためで能力は1台で充分である。群馬県森林組合連合会作成の木質チップ使用をしていた。上質であるため、灰の処理作業の処理も軽く、灰は畑で再利用されている。木質チップを作っている群馬県森林組合連合会渋川県産材センターも見学した。



福祉教育常任委員会

教育関係者との懇談会

8/18

教育関係者の皆様との懇談会を開催し、南箕輪村の教育について活発な意見交換を行いました。
【学校教育の現状と課題】 南部小学校では、「学年内教科担任制」の導入により、教員間の連携が深まり、子どもたちが多様な大人と関わる機会が増えていることが報告され、南箕輪小学校では1年生の洋式トイレが足りていない現状があることがわかりました。また、教員の働き方改革として、会議時間の短縮やICT化を進めている現状が示されました。一方で、保護者対応や部活動指導など、改善すべき課題も挙げられました。
【地域全体で子どもを育む】 学校外での教育についても議論を深めました。部活動の地域移行は、指導者確保や顧問との連携が課題です。南箕輪小学校では放課後の校庭が過密になっている現状や、安心して遊べる場所の不足が指摘され、ニーズに合わせた新たな居場所づくりが求められています。PTA活動はスリム化を進めており、移住者と住民をつなぐ役割も果たしていると聞かされました。今回の懇談会を通じて、子どもたちの成長には学校だけでなく、地域全体に関わることが不可欠であるという認識を改めて共有しました。



花壇作業

7/12



村道6号線沿いにある議会の花壇に、マリーゴールドを植えました。

南箕輪村戦没者慰霊祭

7/22



悲惨な歴史を心に刻み、戦争のない世界を願う想いと共に、戦没者に黙とうを捧げ、献花しました。

若竹祭

9/26



若竹祭に出席し、中学生たちの意見文発表を聞きました。

町村議会議員研修

7/14



松本キッセイ文化ホールで行われた議員研修では、議会での討論を活性化することや、生成AIの現状についての講演を聞きました。

監査功労者表彰

8/22



長野県町村監査員協議会から、6年以上在職した監査員として、都志今朝一議員が表彰されました。

上伊那市町村議会議員研修

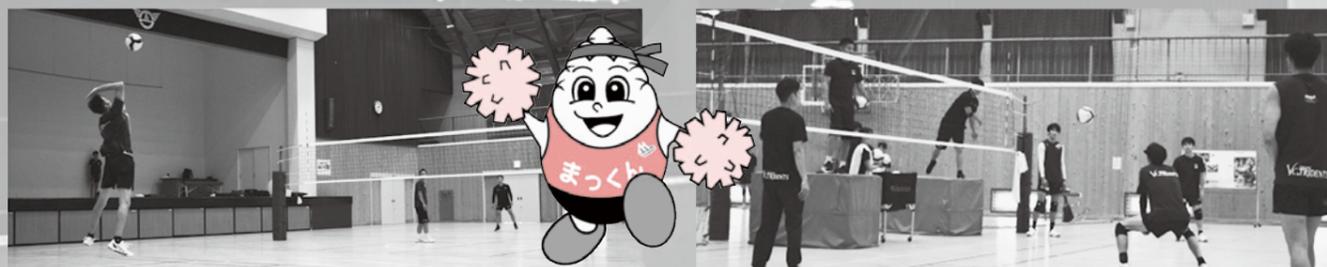
10/3



辰野町民会館ホールで行われた、上伊那8市町村の理事者と議員を対象にした研修会に参加しました。

きらきら村の仲間たち

今月号の「きらきら村の仲間たち」では、VC長野トライデンツの川村監督、藤原選手、難波選手の3名にインタビューしました。日頃の仕事やオフシーズンの活動、村の印象について、普段知ることのできない素顔をお届けします。



今シーズンの目標は？

去年の10勝以上!!



かわむら しんじ
川村慎二 監督
(滋賀県出身)

Q 地域に根差したチームとは？

A 村民や上伊那でVCトライデンツの認知を広げ、より応援してもらえるチームにすること。

Q 地域での若者の育成の考えは？

A バレー人口が少なくなっていて、長野県の選手が少ないので長野県の選手を増やしていきたいと考えてます。

Q 監督の仕事は何をしていますか？

A 選手の評価、育成、強化、スカウト、練習メニューを作ったりしています。

Q 今シーズンの目標は？

A メンバーが多く入れ変わったので、新たなチームづくりで大変ですが、昨シーズンの10勝を超えることを目標にしています。

Q 専属のプロ選手は現在何名？仕事とバレーの両立のメリットは？

A 現在プロ専属の選手は日本人2名、外国人3名が在籍しています。バレー選手は34~35歳で引退することが多く、企業に所属して仕事をしながらバレーをやっていることで、選手を引退しても仕事ができるため、引退後の事を考えれば企業に所属することはメリットだと思っています。



ふじわら しょうた
藤原奨太 選手
キャプテン
(北海道出身)

Q 仕事は何をしていますか？

A TPR株式会社で、車の部品(ピストンリング)の調査などを行っています。

Q 仕事との両立で苦労や工夫していることは？

A 最初は両立が慣れませんでした。今は慣れてきました。午前中に仕事をして午後から練習なので、午前中に仕事が終わるようにしています。間に合わない時は、上司に相談して、職場の人に助けてもらっているので、職場でのコミュニケーションを大切にしています。

Q トライデンツの見どころは？

A 若い選手が多いチームです。選手が変わっても諦めない気持ちと頑張っている姿を見てもらいたいです。

Q シーズンオフはどんな活動していますか？

A 地域貢献活動を行っていて、県内各地でバレー教室を開いてバレーを教えています。また、お祭りやイベントにも参加しています。

Q 南箕輪村の印象は？

A 皆さんの気持ちが温かくて、歩いていると「応援してるよ」と声をかけてくれます。



なんば こうじ
難波宏治 選手
リベロ
(山口県出身)

Q 南箕輪村の印象は？

A 皆さん温かいです。ご近所の方から野菜もらったりして、仲良くさせてもらっています。気候も良くて住みやすいところです。

Q チームの見どころと目標は？

A 勢いのある若い選手の活躍とホームゲームでの一体感ある応援が見どころです。昨シーズンはケガしたので、今年はフル出場を目指し昨シーズンの10勝を超えたいです。

Q 仕事は何をしていますか？

A 地域おこし協力隊として、トライデンツと地域を結ぶ仕事をしています。大芝の湯にトライデンツのブースを作ったり、げんきあっぷクラブや保育園に出向いたり、小学校で授業に参加したりしています。また、選手のトークショーを企画するなどしています。

Q 仕事との両立で苦労や工夫していることは？

A 地域おこし協力隊は決められた仕事ではなく、自分で全て企画し実行するため、そこが大変です。いろんな人からアドバイスを得ながら、仕事を工夫して活動しています。

がんばれ!! **VC** NAGANO **TRIDENTS**



広報モニターの声

モニターのみなさんから寄せられた議会だより誌面や議会に対するご意見を参考に、より親しみやすい議会だより、また議会になるよう努力してまいります。

誌面に対するご意見・ご感想

- 「南箕輪村の歩みと議会の歴史を語る」とても良い企画と思います。現在、村の居住者で約6割から7割は、他所から来た方だと思います。これらの人は村の内容について歴史観が少なく、もっと村のことを知ってもらったら本村の理解者になり、これからの村の発展に協力してくれると思います。この様な企画は時々計画して欲しいと思います。
- 秋の中学生議会に向けて、事前に議会の仕組みや基本法・表明権など説明を行ない、意識づけに心がけているんだと感心しました。次回の議会だよりが楽しみです。
- 150号記念の特集で、前村長を交えての座談会を拝見し、大変興味深く読ませていただきました。合併をめぐる当時の議論や、「まっくん」「デイサービス」「村民センター・図書館」といった事業の裏話など、初めて知ることも多く、とても印象に残りました。座談会そのものでは直接語られていませんでしたが、前村長が掲げてきた「日本一の子育ての村」「こどもたちの声が村中にひびき渡る村」といった公約・ビジョンが、今の村の基盤につながっていることを、この記事を読んで改めて実感しました。そして、こうした村づくりを進めるには、卓越した想像力や強い問題意識、先見性が欠かせないことも感じました。観光資源や大きな企業がない小さな村だからこそ、知恵や工夫を重ねて未来を築いていくことが大切なのだと思います。これからの村長さんや議会の皆さんの取り組みにも期待しています。

議会に対するご意見

- 年々歳々、SNSによる意見の収集があたり前になって来ています。南箕輪村には意見・要望を気楽に投稿できるサイトはあるのでしょうか。あるのだとしたら、もっとアピールし、無いのであれば是非開設していただけたらと思います。
- 子ども達の夏休みが長く、プールもないし、家でゲームなどをやっている時間が長くなってしまい親の悩みとなってしまいます。夏休みに子ども達が過ごせる場等を検討してほしいです。春休みも一緒ですが…
- 道路に迫り出している樹木の枝等、交通に支障をきたす場所が多々あります。定期的なチェックをして頂き、緊急な際支障の無い様をお願いします。
- 村道6号線を通るたびに、歩道上に整えられた花壇の美しさに心を奪われます。花壇ごとに異なる彩りが景観に華を添え、通る人々の目を楽しませてくれます。
- 「グリーン・セーフティ・オアシス大芝高原プロジェクト」は、本当に“いつでも、誰でも、安全に、みんなが楽しめる大芝公園”となるのでしょうか。計画の実効性を高めるためにも、他都市や他町村で実際に親しまれている公園を視察・研究する必要があるのではないのでしょうか。
- 議員間討議の推進を期待します。誌面でも触れられていましたが、議案に対する議員同士の討議をもっと積極的に公開してほしいです。
- 公式LINEなどでも村民の声とか、困ったことを伝えられたらいい。困った時に伝えやすい窓口がどこなのかわからない。



↑すべてのモニターの声はこちらから



↑議会だより150号

編集後記

表紙の写真はVC長野トライデンツの公開練習にお邪魔して撮影してきました。躍動感のある写真が撮りたくて、約800枚ほど撮影しましたが、選手の動きが速くてシャッターを合わせるのが大変でした。素人ながら良い写真が撮れたと自画自賛してます。(西森一博)

広報委員会委員長	三澤 澄子
副委員長	西森 一博
委員	原 源次
	山崎 文直
	百瀬 輝和
	太田 篤己
	唐澤 由江